

ナルデメジントシル酸塩錠の使用状況調査と有用性の検討

・はじめに

がん性疼痛治療において、オピオイド鎮痛薬使用による便秘は40～80%の患者さんにみられ、QOL向上の妨げとなることがあり、既存の下剤による排便コントロールに難渋する患者さんも多くみうけられます。2017年3月、これまでの便秘薬とは作用機序の異なるナルデメジントシル酸塩錠（スインプロイク®錠）がオピオイド誘発性便秘（OIC）の薬として国内で承認されました。そこで、当院におけるスインプロイク®錠の使用状況や有効性、副作用を調査し、薬剤の適正使用に貢献したいと考えました。

・対象となる患者さん

2017年10月1日～2017年12月31日までの3ヶ月間にスインプロイク®錠を投与開始した患者の臨床情報が対象となります。

対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡ください。

・研究内容

カルテより下記の診療情報を収集します。

- ① 臨床所見（年齢，性別，主病名）
- ② 身体所見（初回自然排便までの日数，スインプロイク®錠投与開始前後1週間の排便回数，有害事象など）
- ③ 使用薬剤（併用オピオイドの種類・量，併用下剤，その他併用薬） など

この研究を行うことで患者さんに余分な負担が生じることはありません。

・個人情報の管理について

収集されたデータは、匿名化して患者さんの個人情報が外部に漏れることがないように十分注意して管理いたします。プライバシーの保護に細心の注意を払いますので、あなたの個人情報が公表されることもありません。個人を特定できる氏名，住所，電話番号等は収集しません。またこれらの試料等を利用した医学研究によって得られた成果等が、学術集会や科学専門誌で発表される場合でも個人が特定されることはありません。

・研究期間

院長の研究実施に関する決定通知発行後2019年3月31日まで

・医学上の貢献

実臨床におけるスインプロイク®錠有効性及び安全性を調査し、スインプロイク®錠の内服開始時期や他の下剤との併用について考察することで、薬剤の適正使用に貢献できると考えます。

・研究機関

研究責任者：千葉医療センター緩和ケアチーム 薬剤師 鈴木 博晃

共同研究者：千葉医療センター緩和ケアチーム 薬剤師 佐藤 仁宣，朝日 仁美

看護師 米持 奈津美，丹藤 千絵，手渡 和子

医師 豊田 康義

千葉医療センター薬剤部 薬剤師 新藤 学，加藤 一郎

連絡先

〒260-8606

千葉県千葉市中央区椿森 4-1-2

043-251-5311 内線：2981

担当 千葉医療センター 薬剤部 鈴木 博晃